



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (2月24日～27日)

1. 通貨に関するイラン商工鉱会議所幹部の発言 (24日付シャルグ紙)

イラン商工鉱会議所幹部は、「イラン・リヤールは、他国で両替できない通貨であり、インフレ率が国内為替相場において最も重要な基準となっている。かつ、イラン経済における米ドルやユーロとの関係を取り除くことは当面不可能である。よって、原油や石油化学製品を輸出し、米ドルやユーロを確保し続ける方が良い」と述べている。

2. 人口および一世帯当たりの家族数 (24日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

イラン統計センターによると、現在のイラン国内の人口は概算で7,717万6,930人である。2011年3月～2012年3月までの人口の伸び率は、5年前の1.62%と比べ減少し、1.29%となっており、一世帯当たりの家族数は5年前の4.03人と比べ、3.55人に減少している。

3. 米、食用油、肉などの生活必需品の支給 (25日付イーラーン紙)

24日の国会審議にて複数の国会議員が、政府が国民に対し、米、食用油、肉などの生活必需品の支給を3カ月ごとに行う義務を課す草案に合意した。

4. 関税率とレートの影響 (26日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

関税率の上昇、および(輸送コストや原材料の輸入レートが)公定レートから非参照レートに切り替わったことが影響し、輸出業者らはコストが2倍になったと主張している。その上、輸出入に関する通達が幾度となく発表され、通関手続きの鈍化が輸出業に悪影響を及ぼしているとして、多くの関係者らが不満を漏らしている。

5. 労使協議に関する労働最高評議会メンバー発言 (27日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

間近に迫った労使協議について、労働最高評議会メンバーは「我々はこの会議に臨むに当たり、楽観視していない。現在、イランのインフレ率は30%を超えようとしており、インフレ状態の物価と家計は均衡がとれていない。最低昇給率20%という条件は、到底受け入れられない」と述べた。

6. 航空会社が抱える負債 (27日付イーラーン紙)

イランのアーセマーン航空は、燃料代として1億米ドルもの負債(未払金)を抱えている。イラン国営石油精製供給会社のゼイガーミー総裁は「アーセマーン航空側は同問題に関し、我々との交渉の場にすら現れない。これらの負債が近日中に支払われなければ、訴えを起こす用意もある」と述べた。国内大手のマーハーン航空、イラン航空も同様に債務を抱えているが、詳細は明らかにされていない。イラン航空連盟のムーサヴィー会長は、多くの航空会社が金融問題で苦しんでおり、困難の中、スペアパーツや資材を中古で購入しているのが実情であるとしている。